

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470800194
法人名	(有)カナガミケアリンク
事業所名	グループホーム 花水木
所在地	宮城県角田市角田字中島上170-21
自己評価作成日	平成 21年 11月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成21年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花水木の理念にも掲げている“ゆったり 楽しく 共に寄り添う生活”を日々目指すケアに臨んでいる。日課として毎日散歩に出掛け、近隣の方と顔なじみの関係や健康面でも風邪をひかない体力づくりが自然とできている。日々の中に季節感や刺激を感じて頂けるようお花見・温泉旅行・納涼祭・梨狩り・クリスマス会等企画し、入居者、家族、地域の方々と共に楽しむ機会を設けている。また家族との繋がりも大切に、自宅への帰宅やお墓参り、家族団らんの一時を過ごして頂けるよう働きかけている。地域との交流として、地区の行事に積極的に参加している。皆さんの健康管理として、主治医往診が行われており、医療との連携を図りつつ、コミュニケーションを充分に図れることで安心感が得られている。また、デイサービスも受け入れており、開かれたグループホームだと感じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームには家庭的な温かさがあふれ、理念が日頃のケアに活かされている。デイサービス利用者との毎日の交流も適度の刺激になり、安心して心穏やかに生活している様子が伺われた。利用者も一緒に買い物に出掛け、手作りの美味しい料理が家族からも好評である。「角田市福祉祭」や敬老会・清掃等の地域の行事に積極的に参加し、フラダンス等のボランティアの来訪もあり交流は活発に行われ地域とも良好な関係ができています。毎月発行される「花水木通信」を町内会の回覧板でまわし行事に参加して頂いたり、ホームを理解してもらえよう努力している。ホームの代表が気付きを職員に伝え、職員も細やかな支援を心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2. 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 花水木)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に寄り添うケア」を理念とし、全職員常に頭において日々のケアに反映させている。地域の一員であることも忘れず交流を図っている。	職員は事業所独自の理念を念頭におき日々の支援を行っているが、開設以来の理念である。職員全員で理念について話し合う機会はまだない。	利用者の状態や事業所の状況の変化に合った理念になっているかどうかケアを振り返る意味でも、一年に一度以上理念について皆で話し合う機会を設け見直しをして頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課の散歩や買物の時には挨拶や会話を交わし日常的な交流に努めている。また地域の行事(敬老会・清掃活動等)へ積極的に参加している。地域の方にも当ホームでの行事に参加して頂いている。	地域住民の一員として地域の行事に積極的に参加したり、ホームにも来てもらい相互交流ができています。日課の散歩では近所の人から、利用者の入居以前の情報を知る機会にもなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症高齢者の暮らしの支援として通所介護サービスを行っている。また認知症キャラバンメイトとして地域の方々に向けて認知症の理解や支援の方法を伝えるため、研修会等に参加し協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回実施し、家族・地域・行政の方々に参加して頂き、取り組みや状況報告等行い理解を得ている。参加者からの質問・意見・要望を受け止め、ケアの向上のために生かしている。	会議ではメンバーからも意見が出され双方向的である。行政関係者も参加し2ヶ月に一度開催され、内容は花水木通信に掲載し公表されている。利用者や知見を有する人もメンバーに参加できるようにしたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症キャラバンメイトとしての参加により市町村担当者との連絡や情報交換をし、サービスの向上に努めている。また、運営推進会議に参加して頂き助言を頂いている。	夜間想定避難訓練等、市町村との話し合いや相談する機会を持ち助言を頂いている。キャラバンメイトの資格を有する職員がおり、認知症サポーター養成講座に協力し地域に認知症についての理解を広げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行っていない。日中施錠しておらず、行動を制限せずにその人の思いを尊重し、職員は外出等対応している。また役割や楽しみを持つ事で無断外出を軽減している。	鍵を掛けることを常態化する事はない。近隣の協力も得られており、外出傾向がある人には見守りや寄り添いの工夫をして支援している。身体拘束の弊害を理解しているので、拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同系列施設での勉強会に参加し学ぶ機会を設けている。職員同士特に言動には充分注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の意味や内容はおおむね理解できているが職員全員が学ぶ機会をもっていないため今後の課題である。現在、成年後見人制度を利用されている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、重要事項説明書に沿って職員が十分な説明を行ない、不安や疑問点を受け止め納得のいくまで話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、重要事項説明書やホーム内にも掲示している。また面会時や運営推進会議等で家族の意見を聞き、ケアに反映できるよう努めている。	苦情・意見の相談窓口を利用者・家族に知らせている。苦情というより建設的な意見や感想をいただく機会になっている。服薬時に手渡しをし、利用者自身で飲んで頂くように改善したという例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている勉強会に代表も参加し、職員一人ひとりの思いを話す機会を設けている。	運営者は職員に運営上の気付き等を率直に伝え、職員は指摘してもらえるのは信頼されている事と前向きに捉えている。お花見に利用者の思い出の場所に個別に出掛ける様提案した事等が実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月行われている勉強会に代表も必ず参加し、職員一人ひとりの考えを聞く場を設けている。その中から色々吸収し活かした職場環境を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に合わせて研修参加は必要以上に進めている。実践に活かせる環境、ケアの充実のための努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは意識し合い、常に交流し、職員も入居者もお互いの活動、ケアを学ぶ良い機会と進めている。管理者や職員は他グループホームからも情報を得て、研修等を共に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のバックグラウンドも考慮しながら要望に対応している。本人との会話を通じて不安・要望を受けとめ、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人とは別に面会の場を設け、家族の思いを伺うようにしている。そして本人にとって何が一番大切かを家族・職員が理解し今後のケアに反映するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって今必要としていることを見極め、当グループの施設等を頭に入れて連携を図り対応している。当グループ内で待機者リストをまとめ幅広いサービスの提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の全てにおいて共に支え合いながら「人生の先輩」に教えて頂くという姿勢を忘れず、残存能力を活かし、日々の生活の中で発揮して頂けるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会・運営推進会議を通して家族の意見や情報を提供して頂き、現在の様子は職員が報告し、共に利用者を支えていく関係づくりに努めている。本人の思いを大切に帰宅等家族に相談し受け入れて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から本人がこれまで培ってきた人間関係や社会関係の把握に努めている。友人や知人に気軽に面会に来て頂いたり、本人の望む慣れ親しんだ所に行けるよう家族と協力しながら支援している。	馴染みの店や理美容院に出掛けたり、本人の思い出の場所にお連れして近所の人と昔話を懐かしんでいる。友人がみえて近所の喫茶店にコーヒーを飲みに出掛けることもあり、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの居場所の確保と気の合う利用者同士の会話・関わりが持てるよう支援している。意思疎通が困難な方は非言語的コミュニケーションを十分に配慮し職員がさりげなく話題を提供し他利用者との交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの行事にお招きし、一緒に楽しい時を過ごして頂いたり、時折電話を頂き、野菜等をお裾分けして下さる等関係性は殆ど変わらず、お付き合いを保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で個々の希望や思いに耳を傾け行動として表現されるものを察するよう努力している。定期的なケアカンファレンスで、全職員で一人の人を見つめ、その人の立場になって様々な角度からの把握に努めている。	ゆっくりお茶を飲みながら昔話をする中から察したり、居室の掃除の時に想いをさりげなく聞く等している。意向を把握した時にメモだけでなく、ノートにまとめて職員間で共有し活用できるように工夫して頂きたい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にバックグラウンドを伺い、情報収集し記録に残すだけでなく、職員全員で共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今どのような思いで行動に表現しているのか、言葉にならない状態の把握に努め「満足度」を重視するよう努めている。心身状態、有する力に変化がないか見逃さないように、気づいたことは記録に残し、職員全員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で本人や家族の意見を伺い、必要に事業所以外の関係者の意見も頂いている。毎月ケアワークシートを活用しながらケースカンファレンスを行い、必要に応じ計画の見直しを行っている。	利用者・家族の意向や職員の気付き等を毎月のカンファレンスで検討し介護計画を作成している。計画の実施状況をモニタリングをし、3ヶ月毎に見直しを行い家族にも説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を行い、また日々の生活の中で気づいた事を記録やケアワークシートに記入し、情報を共有しながら実践や見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人や家族の声に耳を傾け、その時々生まれるニーズに対応し、できるだけ叶えていけるよう努めている。本人の希望や行動に合わせて外出する際は気持ちよく出掛けられる体制をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区や近隣の保育所の行事に積極的に参加させて頂いている。以前から月1回ずつ折り紙ボラや絵手紙ボラにも来て頂いている。消防訓練では近隣、社宅の方の協力も頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居にあたりホームの協力機関へ家族同意の下主治医を変更して頂き、緊急時も適切な処置を受けられている。現在は月1回往診に来て頂いており、利用者の状態や特変等相談し適切な判断を頂いている。	診療科目によっては掛かり付け医に診てもらうが、入居時に協力医に変更し月一度往診があり家族アンケートでも安心感を得られている。既往症歴は今現在の診断書名の一覧を整備している段階である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の関わりの中で得た情報や気づきを連絡ノートに記入し、協力医療機関の看護師や医師に相談し、適切な受診や治療が受けられるよう努めている。往診の際には看護師よりアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医師・看護師・家族と情報交換を密に行い、本人に安心して過ごして頂けるよう努めている。また入院中にも本人の安心のために面会に出向き、早期退院に向け医師との情報交換を行い退院後のアドバイス等頂き連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的処置が必要となった場合は病院での対応となるが、本人の思いを第一に考え、本人の希望を優先している。現段階から家族へ本人の思いを大切にすることを伝え、往診時医師への報告、家族への申し送りを密に行っている。	重度化した場合、終末期についての話し合いはなされているが、成文化されていない。本人の馴染みの場所で最期まで過ごしたいという希望に応えるケアの力量が問われている。	重度化や終末期に利用者の状態の変化に応じて対応していくには、事業所が現時点でできる対応を明確にし、重度化に対する方針を定めると共に意思確認書を作成して早い時期から家族の安心に繋げて頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修は行っていない。10月にホームにAEDを導入したので今後取り扱いの勉強会を続けて行きたい。応急手当や初期対応の訓練を医師や看護師に協力して頂きながら今後知識を積んで行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを常に確認し、スタッフ全員の認識を高め行動できる体制を訓練の中に取り入れている。また社宅・地域の方にも事前に協力を依頼し参加して頂いている。非常食も備蓄も十分に準備し、定期的に消化器等の点検も行っている。	避難訓練は年二回(夜間想定含)実施され、地域の人や隣接している会社の社員寮の協力が得られる。夜勤者の負担が大きく、夜勤者の手厚い配置に依る「夜間ケア加算」が取れるように検討をお願いしたい。	手薄な夜間帯の不安や職員の心理的負担を軽減できるようにする為に「自動通報装置・火災報知機・スプリンクラー」をできるだけ早急に設置できるように考慮して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳の気持ちを持ってケアに臨んでいる。職員間でお互いの言動をチェックしあい、注意するように努めている。馴れ合いの関係になったりプロ意識に欠けることのないよう注意している。	尊厳をもって名前や苗字で呼びかけている。必ず本人の了解をいただいてから居室に入り、粗相をした時等は人前で恥ずかしい思いをさせないようにさりげなく支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが満足して頂けるように関わり方や声掛けの工夫をし安心が得られるよう支援している。本人の思いに気づくために小さな事でも見逃さず職員全体で共有するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず、一人ひとりのペースを大切に本人の思うこと、感じることを受け入れ、できる限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人の意思を尊重し、季節に見合ったコーディネートができるよう支援している。お化粧される方に関しては、お化粧するというのを忘れないよう声掛けし、それぞれのおしゃれのお手伝いをさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方々に食べたい物を伺い、好みや体調、季節に見合った献立を作成している。買い物から季節を感じたり、調理から片付けに至るまで一人ひとりにあった役割を持ち楽しまれながら行っている。	食事は大切な時間帯と位置づけ、テーブルにランチョンマットを敷き落ち葉を添え季節感を醸し出す等随所に細やかな配慮がなされている。職員も同じものを食べ、食材のことを話題にして楽しみながらの食事風景だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士から食事に関するアドバイスを頂いている。個々に合わせて配膳の際に食事の形態(きざみ等)を工夫している。水分量はその日の気温や運動量も配慮し、細めに摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食後の歯磨きを実施している。磨きが十分でない方に関しては口腔ケアを介助させて頂いている。また、義歯使用者は洗浄剤を使用し清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ入り口に表札をつけ、一目でわかるようにしている。また排泄記録をつけ、回数やパターンの把握を行っている。また、必要に応じ、失敗のないように個別に誘導を行いトイレで排泄できるように支援している。	個々の排泄のリズムを把握し、個別誘導をしている。夜間は利用者が戸惑わないように明かりをつける工夫をしたり、「トイレの便座あったかいですよ」などと声掛けをしている。結果、今は全員布パンツである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立を工夫し食物繊維を多く含む食品を使用するよう努力している。水分補給も細めに行っており、散歩等運動する機会を設けている。排泄チェックを行っており、出ない日が続いた時は腹部マッサージ等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は木曜以外毎日行っている。時間帯はできるだけ希望に沿って行っている。また、気の合った同士と一緒に湯船に浸かる等楽しみも取り入れている。利用者と触れ合う大切な時間として、関わりも重視しながら清潔保持に努めている。	利用者が希望する時間帯に入浴して安眠に繋がるよう支援をしている。ゆず湯や菖蒲湯などの季節感を楽しみながら入浴することもある。拒まれる場合には、スタッフを代えたり声掛けに工夫して入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や夜間の睡眠状態と日中の活動状況のバランスを見ながら、その時々状況に応じ休憩したり、安心して気持ちよく眠れるよう寝具や照明、室温等の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬情報の一覧表を病院から頂いており、職員は把握し理解している。服薬は全て職員が管理し手渡し見守りの下内服している。症状等変化があった時は医師に報告し指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできることを把握し、役割をお願いしている。強制はせず、楽しみながら行ってもらえるよう職員も加わりながら行っている。必ず1日1回は笑顔が見られるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩や買物等で外へ出る機会を設けている。地域のイベントにも参加している。個別での外出も希望時対応している。遠距離の場合や職員が対応できない場合(家族とお墓参り、自宅に戻外出された後等)は家族に協力して頂いている。	行きつけの店や理美容院、またコーヒーを飲みに行くなど目的を持った外出もある。日課となっている散歩はその時々で複数だったり、個別に出掛けることもある。行事や季節に合わせた特別な外出や外泊の支援も柔軟にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に添って所持したり使用している。安心のために所持している方もいる。金銭管理を行うにあたり、家族から同意を頂き、購入した物をお小遣い帳に記入し、細めにチェックして頂くよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話を利用される方もいる。また、絵手紙教室で利用者の方が作成した絵手紙を年賀状として家族に送ったりし、家族や友人との繋がりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るすぎず暗すぎない照明となっており、日中は自然光で過ごしている。室温はあまり外気との差がないように注意し自然の空気を取り入れている。季節の花を飾ったり、折り紙教室等で作った作品を飾り、季節の移り変わりにメリハリをつけている。	座り心地の良い椅子が用意されていて、利用者はリビングで一日を過ごす事が多い。家にいる感覚でいられる様にと配慮がなされている。新聞や雑誌が用意され、最近絵本に人気がある。明かりや音・室温等は適切で居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隔離されたスペースはないものの気の合う同士で和室で語ったり、自室に招き招かれと信頼関係のある中で心地よい居場所づくりができています。西廊下の端に椅子があり、一人になれる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持って来て頂けるように話しており、筆筒等持参されている方もいる。ホーム内で作成した作品・絵等も飾られている。馴染みの物があることで気持ちが不安定になる方もおり、持参されていない方もいる。	利用者の愛用の物が持ち込まれその人らしい部屋になっている。居室の出窓の下に板張りのベンチが在り多目的に活用され、ドアには小さいすりガラスがはめ込まれ、明かり等の気配が感じられるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握し、残存能力を引き出す工夫をしている。使い慣れた物の配置は変えないようにしている。暦は混乱を避けるため日めくり暦を使用。トイレは表札をつけたり、夜間明かりをつけておき迷わないようにしている。		